

2021年6月27日

きょうかいがっこうコーナー

年間第13主日

ふくいん マルコ 5. 21~43 <25~35a>は、はぶきます

(そのとき)、イエスがふねにのってふたたびむこうぎしにわたられると、おおぜいのぐんしゅうがそばにあつまってきた。イエスはみずうみのほとりにおられた。かいどうちょうのひとりでヤイロという名のひとがきて、イエスをみるとあしもとにひれふして、しきりにねがった。「わたしのおさないむすめがしにそうです。どうか、おいでになっててをおいてやってください。そうすれば、むすめはたすかり、いきるでしょう。」そこで、イエスはヤイロといっしょにでかけていかれた。< >かいどうちょうのいえからひとびとがきていった。「おじょうさんはなくなりました。もう、せんせいをわずらわすにはおよばないでしょう。」イエスはそのはなしをそばできいて、「おそれることはない。ただし信じなさい。」とかいどうちょうにいわれた。そして、ペトロ、ヤコブ、またヤコブのきょうだいヨハネのほかは、だれもついてくることをおゆるしにならなかった。いっこうはかいどうちょうのいえについた。イエスはひとびとがおおごえでなきわめいてさわいでいるのを見て、いえのなかにはいり、ひとびとにいわれた。「なぜなきさわぐのか。こどもはしんだのではない。ねむっているのだ。」ひとびとはイエスをあざわらった。しかしイエスはみなをそとにだし、こどものりょうしんと3にんのでしだけをつれて、こどものいるところへは行っていかれた。そして、こどものてをとって、「**タリタ、クム**」といわれた。これは「**しょうじよよ、わたしはあなたにいう、おきなさい**」といういみである。

しょうじよはすぐにおきあがって、あるきました。もう12さいになっていたからである。それを見るや、ひとびとはおどろきのあまりわれをわすれた。イエスはこのことをだれにも知らせないようにきびしくめいじ、また、たべものをしょうじよにあたえるようにいわれた。

かいどう(ユダヤじんのかたがたがまいどようびいのるためにあつまっていたばしよでした。)のせきにんしゃであるヤイロというかたにはおおきなかなしいことがありました。それはじぶんのちいさなむすめはたいへんなびょうきにかかってもうなおらないことをきいて、すぐ、イエスさまのことがあたまにうかんで、きつとたすけてくださるとかながえて、ひっしのおもいでイエスさまのところにとんでいきました。そしてイエスさまに「わたしのむすめはしにそうです、なおしてください」とねがった。そのときにイエスさまは「わたしが行って、なおしてあげよう」といわれたので、ヤイロはよろこんでイエスさまをじぶんのいえにあんないしました。しかし、みちのとちゅうで、いえからのつかいがきて、むすめがなくなったことをしらせ、イエスさまにきてくださらなくてもいいといいました。ヤイロはそのしらせをきいて、かなしくて、かなしくて、たおれそうになった、ずっとないていたので、イエスさまはヤイロにこういいました。「おそれることはありません、ただ、わたしを信じなさい。」それでいえまでいったら、たくさんのひとがいないいたので、イエスさまはみんなにいいました、「なかないでください、そのこどもはしんだのではない、ねむっているのだ」と。そしてイエスさまはりょうしんと3にんのでしといっしょに、そのこをねかせていたへやにはいり、そのこの

てをとって「**タリタ、クム、しょうじよよおきなさい。**」といわれました。するとそのこはめをあけてあきあがりました。まわりにいたひとたちはびっくりして、いままでのかなしかったことをわすれて、おおよこびました。

イエスさまは、わたしたちがひつようなときに、「おきなさい」ということばをかけておられます。こころのなかで、ねむっているイエスさまのことをおもいだしなさい、といっておられます「おきなさい」とのこえがきこえませんか。きょうかいにこないのか、ともいっていられますよ！どうする？ イエスさまにしらんかおをできるのでしょうか。

ぬりえ

うつっているかたがたはなにをいっていますか。

